

築理会（工学部1部2部のOB会組織）との交流会開催

事務局 市川（S45年卒）

かねてから築理会の大岩事務局長から投げかけのあった交流会が6月1日、はじめて開催された。神楽坂の理窓会館で双方の会長をはじめ、各事業部会の役員が出席し意見の交換を行った。

築理会の野々村会長からは建築学会における理科大学出身者の会員数は国立、私立の大学の中でも5番目に位置するが、数の割にはOB会組織として力不足を感じているとの話があり、野田建築会と定期的に交流会を開催し東京理科大建築学科出身者の存在をアピールする機会に少しでも役立てたいとの提案があった。

立見会長からは野田建築会が発足間もなく、ようやく各事業が軌道に乗り始めた事、また各事業部会の活動状況などの説明を行った。

双方の会長の挨拶の後、共同で出来るものは何かと話し合った中で、まずOB会の基本である名簿を合同で発行する事からはじめる提案が出された。発行時期は平成14年3月頃を目標として具体的には双方の名簿部会で準備を開始する事になった。

また、2年ほど前から行われていた事であるが総会開催時には、お互い役員を招待し合う事が確認されたほか、セミナー等の行事を開催した場合、双方の会員が出席出来るようにするなど幅広い交流の場を設けたらどうかとの意見も出された。

*築理会；発足昭和46年、平成13年現在の会員数約4500名（工学部建築学科1部、2部のOB会）

野田建築会のホームページとメーリングリストをオープンしています

会報部会 周藤（S54年卒）

情報部会 熊井（S54年卒）

全国にいる大学時代の仲間にOB会及び大学の情報を知ってもらうためのホームページを、仲間と連絡をとりあったり、仲間を探したりする為にメーリングリストをオープンしております。ぜひ近くの仲間に教えてあげてください。

ホームページは最終ページの最下段にアドレスをいれてあります。お気に入りに登録していただいて、ちょっと息抜きに見てみませんか？知っている人間がいるかも…

また、会費納入に関わらずに参加できる野田建築会のメーリングリストもあります。参加方法は <http://www.egroups.co.jp/group/naa-tr> のアドレスからはいつてユーザー登録してください。野田建築学科の方ならどなたでも参加可能です。

ペンシルバニア州立大学での生活

—米国の建築教育に触れて— / 三井建設 山田 哲也 (S59 年卒)

1993 年から 1996 年の 3 年間、アメリカのペンシルバニア州にあるペンシルバニア州立大学 (PSU) に留学する機会を得ました。1984 年に建築学科を卒業し、三井建設(株)の技術研究所に勤務して、約 10 年が経過した時のことです。留学のきっかけになったのは、同大学の建築工学科 (Architectural Engineering) に在籍していた Nanni 教授が来日し、当研究所で共同研究していたことです。私の研究テーマが、教授の分野と比較的近かったことが、大学院への留学の薦めを受ける結果となりました。

技術研究所では、建築構造研究室に所属し、鉄筋コンクリート (RC) 造を含む諸構造の新構工法を実験的手法により開発する業務に携わっておりました。しかし、1990 年前後には、コンピュータの発達とともに RC 造の解析的研究が盛んになり、数値解析による研究も一般的になりつつある時代であった気がします。そんな中で、私は、RC 造の解析的研究を本留学の研究テーマに掲げることにしました。

大学院での 1 年目は、先に述べた建築工学科に所属し、単位数を満足させるため、授業を中心とした生活でした。2 年目に入る時に、マスター論文で師事したい教授が、土木工学科に所属されていたため、学科を変更することにしました。土木工学科への転入を終え、同学科の Krauthammer 教授の下で、RC 造平板のせん断破壊に関する研究を進めました。RC 造のせん断破壊機構に関する考え方は、いまだに全世界で共通した理論がありません。北米の地、米国とカナダの間でも設計基準を巡り、ACI (アメリカコンクリート工学協会) のなかで議論を展開している話題でもありました。同テーマについてマスター論文を書き上げ、無事、2 年目を終了することができました。

残りの 1 年間は、ドクターコース入学資格を得るため、必要最低単位数の取得・専門試験・英語能力試験・ドクター論文の提案書の作成に費やしました。論文の内容は、マスター論文の拡張で、非線型性を考慮した RC 造平板のせん断破壊に関する研究としました。

帰国後は、環境の違いに戸惑いながらも、仕事の合間を見つけ、ドクター論文の準備を進めました。5 年の歳月が経過してしまいましたが、「Theoretical Analysis of Reinforced Concrete Shear Panels」というタイトルで、なんとか終了することができました。その間、担当教授である Krauthammer 教授とは、電子メールを使って、連絡を取り合いました。インターネットの発達のおかげで、随分助かりました。今では、全世界の大学や研究機関の情報が、インターネット上で簡単に手に入ります。私が留学した PSU のアドレスは、www.psu.eduです。是非、訪問してみてください。

やまだ てつや / 東京都

1984年 東京理科大学理工学部建築学科卒業 (野村研究室)
三井建設技術研究所入社
現在、三井建設技術研究所 特許室

東京理科大学野田建築会 OB と語る会

事業部会 五十嵐洋也(S53年卒)

平成13年5月21日(月) 16:00~17:30

野田校舎4号館 414教室にて

一昨年の秋に第1回目の「就職ガイダンス」を行い、今回は名前を改め「OB と語る会」を催しました。4,000名を越える卒業生が何らかの形で在學生を応援できることはないかという発想で始めたイベントです。初回は、授業の終了直後に同じ教室で催したことで「就職」を前面に出したことで、まさしく「就職ガイダンス」となり60名以上の学生が集まりました。今回は「就職」という括りだけでなく、卒業生がどのような職に就いているかを紹介する場としようということで「OB と語る会」とし、広範に卒業生のことを聞いてもらう場としました。堅苦しい雰囲気避けるため、椅子を丸く並べて卒業生対在學生という構図にしないようにしました。4号館は建築学科の棟ではないこともあり、在學生は30名ほどの出席でした。

最初に、若松先生に最近の厳しい就職状況を話していただき、講師の話聞きしました。

<出席講師>

政谷悦子さん(住まい塾:昭和57年卒)

主に住宅を中心とした設計をされています。スライドを持参していただき、建築の手作りの良さを話していただきました。大手建設会社にも勤務されていましたが、疑問を感じ今の仕事に就いたとのことでした。

高安重一さん(建築研究室高安重一事務所所長:平成元年卒)

気鋭の建築家。やはり、スライドを持参していただきました。ひとつのスタイルを持って設計されている印象を感じました。

森田康夫さん(都市基盤整備公団:昭和50年卒)

大規模開発に携わっておられ、公団の役割と変遷を話していただきました。自身は公団に中途採用されたとのことでした。

栗木 茂さん(戸田建設(株)建築部工事課次席:平成6年卒)

大手建設会社の現場主任。建設現場のことをいろいろ話していただきました。

千葉利宏さん(エフプランニング:昭和59年卒)

つい最近まで日本工業新聞に勤めておられ、建築業界を外の角度から話していただきました。在學生には客観的に聞こえたのではないのでしょうか。

会終了後、第3食堂の2階の談話室で講師の慰労を兼ねて食事会をしました。在學生も15名ほど参加し、また違った雰囲気、和やかで闊達な慰労会となりました。

講師の方々には忙しい中、出席していただきありがとうございました。また、OBの方々には今後、「OB と語る会」への出席をお願いすることもあると思いますのでよろしくお願ひいたします。

『OBと語る会』会場場面



学科シリーズ 研究室紹介 若松研究室 (建築防災)

松山 賢 (H6年卒)

若松研究室が設立されてから約15年が経過しております。その間、約200人の卒研を輩出し、現在、多くの諸先輩方が多方面で活躍されております。本年度は、卒研14名、大学院生13名(うち博士課程2名)、計27名の大所帯で活動しております。

近年では、建築基準法改正に伴う性能評価に関するテーマを始め、科学的な火災現象(火炎性状、煙流動)の分析や実務的な防・耐火設計の体系化といった建築火災安全工学に関し、幅広く研究を行っております。このように火災全般を研究対象とする機関は建築としては勿論のこと、大学としては国内にはほとんど無く、非常に特色のある研究室となっております。

学会発表も積極的に行っており、日本火災学会および日本建築学会等の国内に加え、国外の学会(会議)でも発表を行っている。また、精力的に研究を行っていることの証として、一昨年度は、日本建築学会の優秀修士論文賞(「性能的火災安全設計法のケーススタディ～物販店舗への適用～」、水野雅之君)、昨年度は優秀卒論賞(「避難安全検証法により確保される安全水準の分析」西田朋子さん)と2年連続で受賞者を輩出しております。

通信欄

1. 来年の3月頃に築理会との合冊名簿を発行する予定です。
2. 来年の5月頃に定期総会開催予定です。仲間と会えるチャンス!

編集後記: アキス腱を切りました。「~のアキス腱」とはよく言ったもので、本当に大変でした。おかげさまで今では動くようになりましたが、中年太りも手強い治りも遅く「中年になんだナー」とつくづく感じる今日このごろです。



発行 東京理科大学野田建築会 〒278-8510 千葉県野田市山崎2641
<http://www5a.biglobe.ne.jp/~sut-naa/index.html>
郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会